



COMMON SHELF

まるで空間に融け込むような。そんな表現がしっくりくる、もの静かで控えめな佇まい。一見とてもベーシックだけれど、つくりは少々変わっていて、細部にわたしたち独自の工夫とこだわりを込めている。

こういった形のシェルフは通常、収納力を上げるために棚板が移動できる可動棚になっている。しかし、COMMON は「DOOR」タイプの内部棚板を除き、オープン部分の棚板はすべて固定棚。固定棚のメリットは、可動棚の場合にはぼこぼこ露出するダボ穴（棚板を支える棚ダボという部品を差込むための穴）を避けられるためチープさが出ず、単純にモノとして印象が良くなること。そして、強度も高まる。シェルフは本を収納するだけでなく、フラワーベースや器を飾ったり、こつこつ収集してきたオブジェを並べてみたりなど、「飾る場所」としての役割も大いにある家具だから、そんなディスプレイシェルフ的な側面も考慮した結果、ダボ穴の出ない固定棚に潔く統一した。

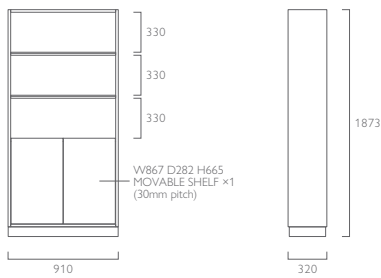
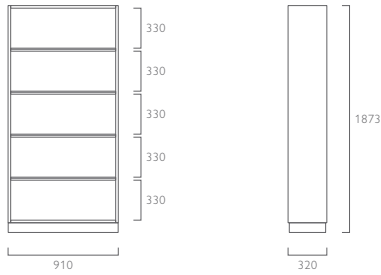
オープン棚の収納スペースの高さはどの段もすべて 330mm。A4 バインダーよりも少し大きいくらいの高さで、シェルフに入れたいようなものは大体納まる寸法になっている。文庫本や背の低い小物などを納めると、その上部は広く空いてしまうのだけれど、収納効率はともかく見た目的にはそんなふうには余白がたっぷりあるのも悪くなく、むしろ美しい。縦に流れる背板の木目が覗くのも良い。棚板の配置は完全な等間隔で、これは多少雑多に詰め込んでもなんとなく規律を感じさせたり、整った印象にみせてくれる視覚効果を利用するため。また、意匠的な操作として唯一、棚板にテーパ―がとってある。厚さ 25mm の棚板に対して、9mm の木口を残して 20 度に前部をカット。このディテールによって棚板は実際よりも薄く見え、繊細な佇まいが生み出されている。

比較的幅広で、高さもそこそこあるため容量はたっぷり。奥行が浅いため導線を邪魔せずレイアウトできるのも地味に優秀。本もたくさん収納できるが、前述のように飾ることに配慮したつくりになっているので、余白をつくってディスプレイも楽しんで欲しい。飾るものは季節などに合わせて時々入れ替えてあげると、印象が変わって新鮮な気分になれる。これ以上ないくらいにシンプルなので、使い方で色々な一面をみせてくれるはずだ。

[仕様] ウォールナット突板(オイル仕上) / オーク突板(オイル仕上) [耐荷重] 約 100kg (棚板 1 枚あたり) [機能] アジャスター付 / DOOR タイプはキャビネット内部に可動棚 (1 枚) 日本製



TYPE	PRICE
<p>OPEN W910 D320 H1873</p>	<p>[WALNUT] [OAK] 231,000</p>
<p>DOOR W910 D320 H1873</p>	<p>[WALNUT] [OAK] 293,000</p>



価格はすべて税込表記です。